

# 地域住民福祉活動 情報交換会報告

身近な地域で支えあうしくみを築き、そこに暮らす住民が主体となり様々な課題の発見・解決を図る取り組みである小地域福祉活動が、区内19の連合町会を基礎エリアとして進められています。

全19地区において小地域福祉活動の推進組織が設置され、連合町会と民児協が中心となって各地区の実情に応じた様々な取り組みが行われております。

現在、新型コロナウイルスの感染症の拡大に伴い、各地区においてこれまで展開してきた小地域福祉活動は、休止や縮小をせざるを得ない状況が続いておりますが、今後はウィズコロナで感染予防に留意しながら、小地域福祉活動を推進していくことが求められます。

そこで、実施に活動を担っている方に向け、コロナ禍においても安心・安全に小地域福祉活動を進めるために必要な「感染予防」「健康」「社会参加」「地域づくり」の4つのキーワードについて学んでいただきたく下記内容を映像資料(DVD)としてまとめました。各地区の活動再開の状況に合わせてご活用いただきたいと思います。

\*新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、会場での情報交換会は実施しておりません。

## ◆内容

「感染予防と地域住民福祉活動の再開に向けてーウィズ/ポストコロナを見据えてー」

- ・ 巣籠もり生活と生活機能低下
- ・ 多世代共生社会と多様な通いの場
- ・ 活動再開に向けて～三方良しのソーシャルキャピタル

## ◆講師紹介

### 藤原 佳典 氏

(東京都健康長寿医療センター研究所  
社会参加と地域保健研究チーム 研究部長/医学博士)



- ・北海道大学医学部卒業
- ・京都大学病院老年科等にて勤務
- ・京都大学大学院医学研究科修了
- ・ジョンス・ホプキンス大学(米国)加齢健康研究所において  
高齢者の学校ボランティアプロジェクト「the Experience Corps」研究に従事
- ・絵本の読み聞かせを主な活動としたシニア世代による学校支援ボランティア  
「りぶりんと」を創設
- ・2011年より現職

## ◆映像資料活用の様子



藤原先生より小地域福祉活動(地域活動)を楽しむコツは『知識・技術(日々、学習)』『センスを磨く』『まめに参加』の3つであると教えていただきました。

コロナ禍で活動に制限がある中でも、『3S(センス・シナジー・スマイル)』で乗り越えようというメッセージをいただきました。

藤原先生の講演が今後の活動継続・再開のためのヒントになっています。

**令和3年度地域住民福祉活動情報交換会**  
**「感染予防と地域住民福祉活動の再開に向けて**  
**～ウイズ/ポストコロナを見据えて～**



1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任 つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナースhipで目標を達成しよう	



2030年に向けて  
世界が合意した  
「持続可能な開発目標」です

**2021/8/5 主催 葛飾区社会福祉協議会**  
**東京都健康長寿医療センター研究所社会参加と地域保健研究チーム**  
**藤原佳典**

## 本日の話題

- 巣籠もり生活と生活機能低下
- 多世代共生社会と多様な通いの場
- 活動の再開に向けて～

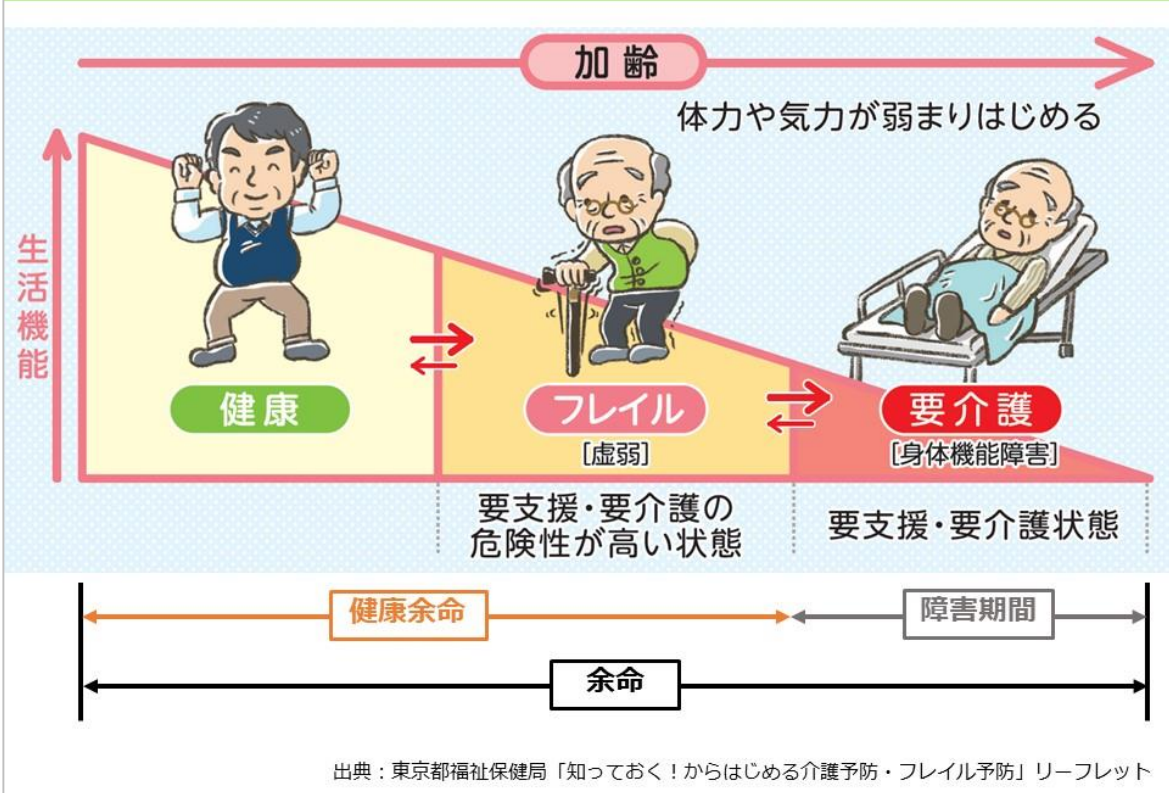
三方良しの「ソーシャルキャピタル」

近江商人「売り手良し、買い手良し、世間良し」  
 (論語と算盤)

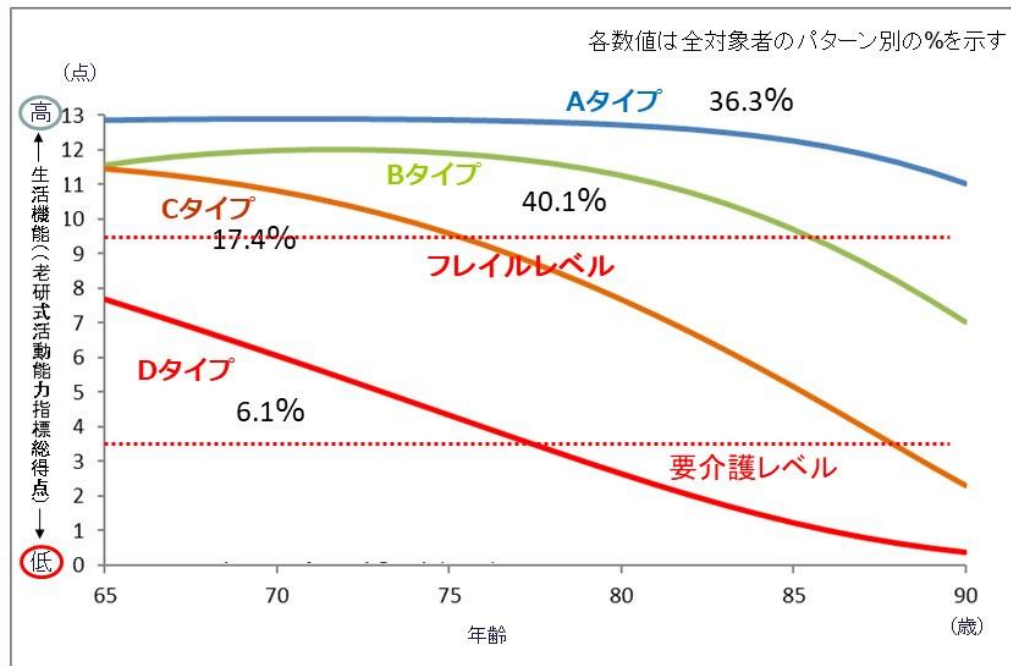


澁澤榮一  
 東京都養育院(当センター)の創設者

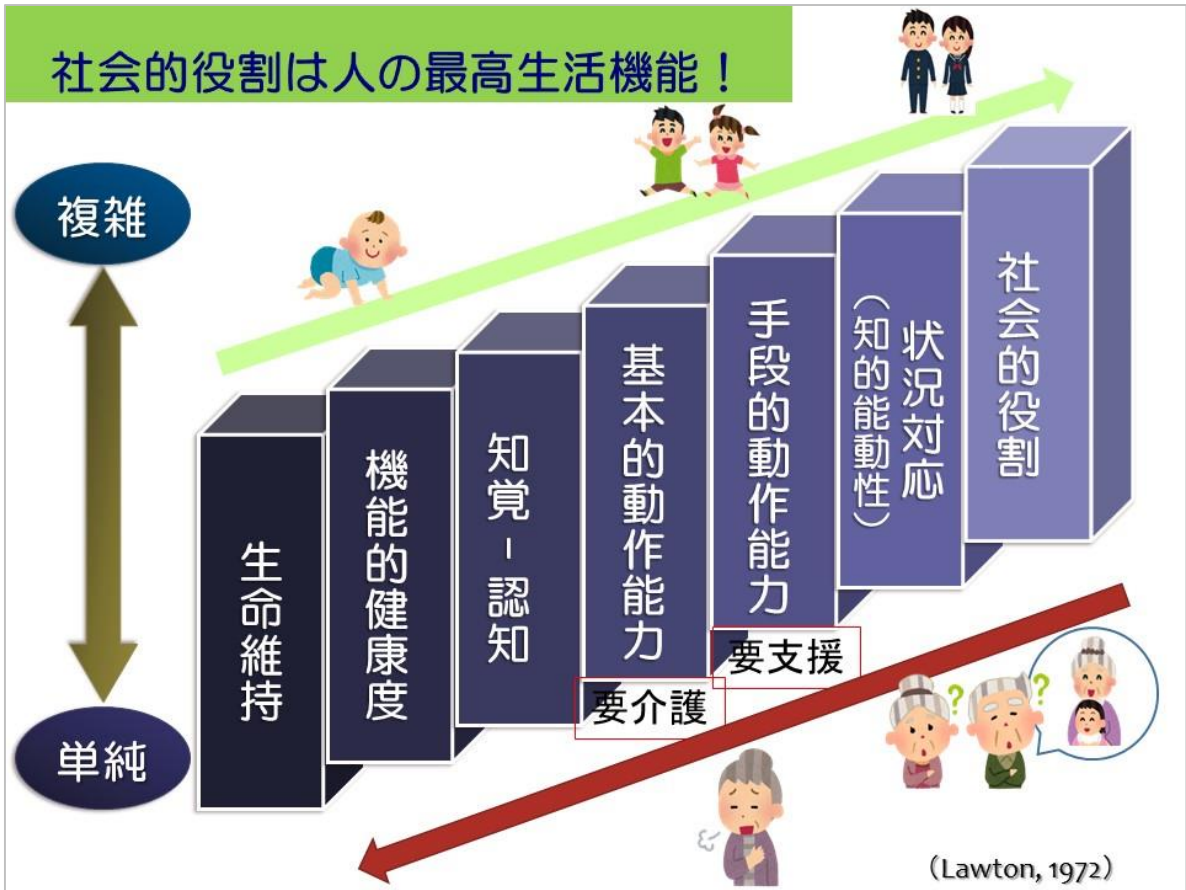
# フレイルとは、早期からの介護予防



# 生活機能の低下は、4タイプに大別される

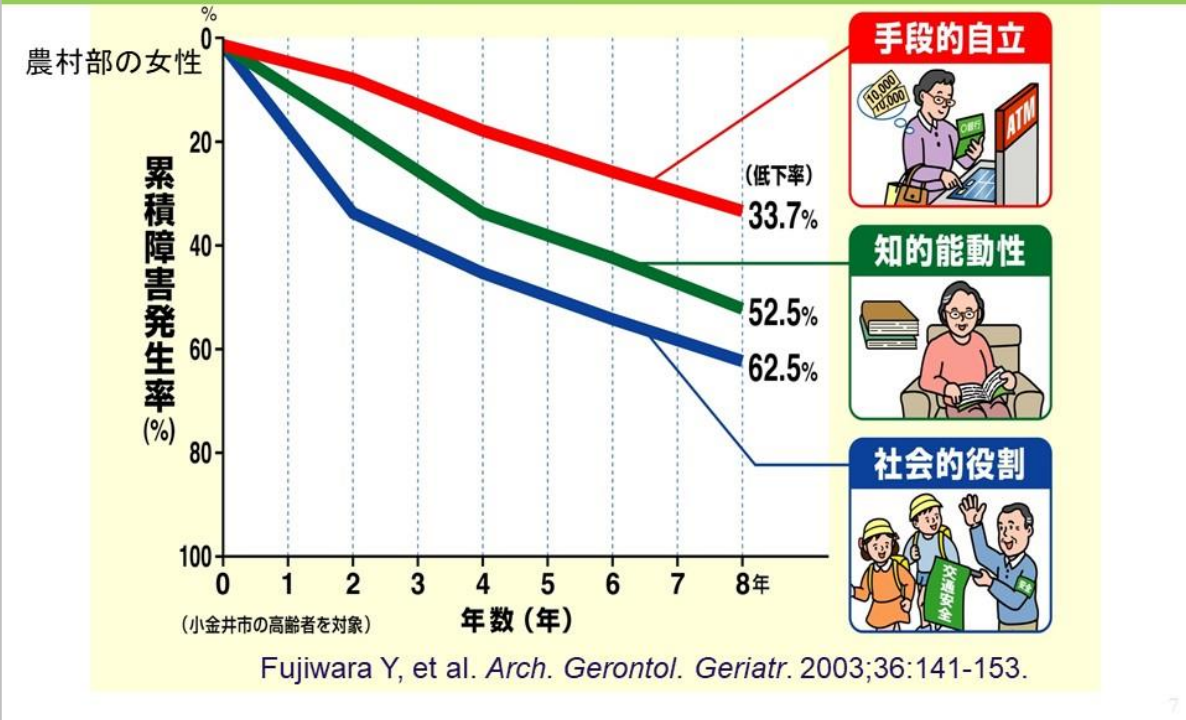


Taniguchi Y et al. J Gerontol A Biol Sci Med Sci. 2019 ; 16; 74(2):211-218を新開が改編

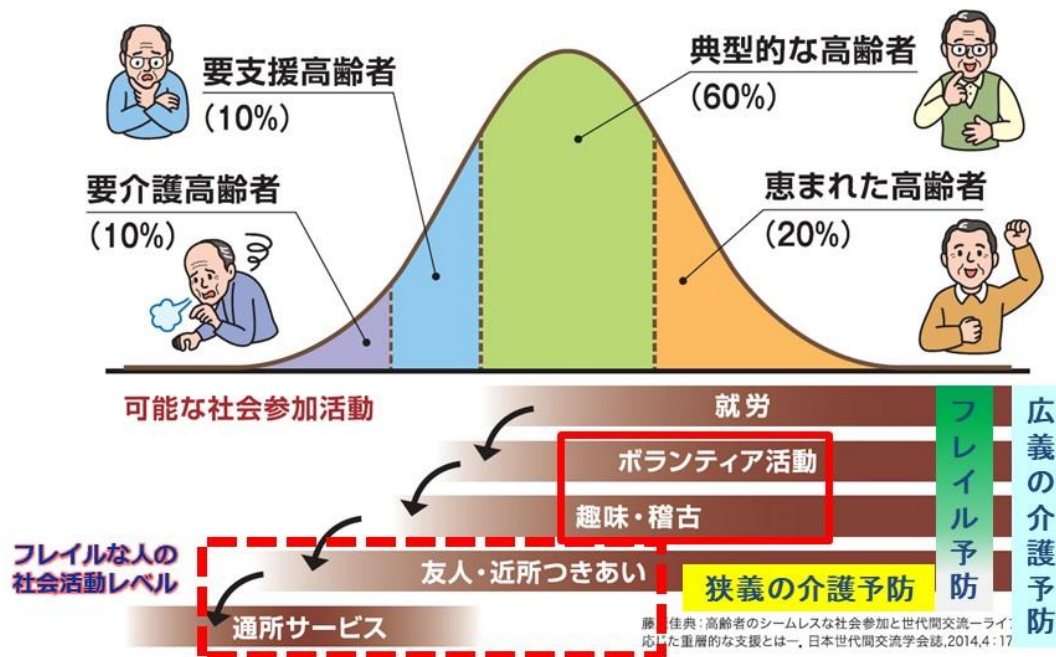


## なぜ、社会参加か？

### 高齢者の高次生活機能の加齢変化



# ライフステージに応じた社会活動とフレイル予防



## 本日の話題

- 巣籠もり生活と生活機能低下
- 多世代共生社会と多様な通いの場
- 活動の再開に向けて～

三方良しの「ソーシャルキャピタル」

近江商人「売り手良し、買い手良し、世間良し」  
(論語と算盤)



澁澤榮一  
東京都養育院(当センター)の創設者

## 【ポイント】

- **通いの場**の取組を始めとする一般介護予防事業は、**住民主体**を基本としつつ、効果的な**専門職の関与**も得ながら、従来の介護保険の担当部局の取組にとどまらず**多様な関係者や事業等**と連携し、充実を図ることが必要。
- こうした取組をより効果的・効率的に行うためには、PDCAサイクルに沿った推進が重要であり、市町村・都道府県・国がそれぞれの役割を最大限に果たすべき。

10

## 地域で「つながり」が生まれるには？



十分に計画された「つながり」戦術が必要  
秘訣は三方良しの「人」と「場」と「仕掛け」！





一般介護予防事業等に今後求められる機能を実現するための具体的方策等

## 【通いの場などの介護予防の捉え方】

- 取組を類型化し、事例集等を作成。自治体や関係者に周知。



[https://www.tmg Hig.jp/research/info/cms\\_upload/3cd74733cf4654dcebbcb609db2dc2ba\\_1.pdf](https://www.tmg Hig.jp/research/info/cms_upload/3cd74733cf4654dcebbcb609db2dc2ba_1.pdf)

14

## 今、なぜ多世代アプローチなのか？

### 「我が事・丸ごと」共生社会の肝は

- 「丸ごと」とは、  
「三方よし」「論語と算盤」(澁澤栄一)



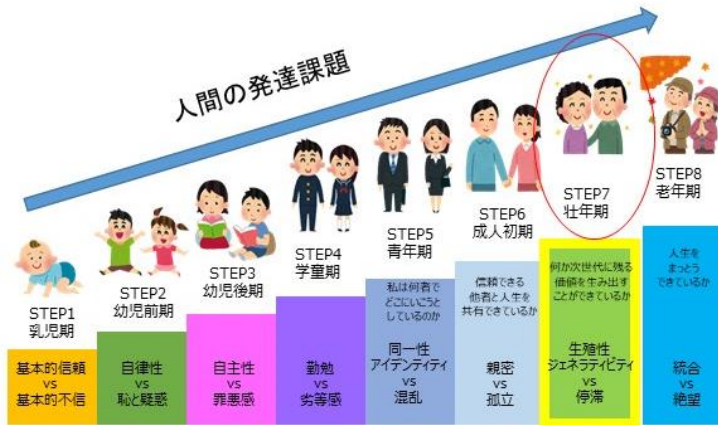
- 「我が事」とは、  
「子供叱るな来た道だもの、  
年寄り笑うな行く道だもの」



# 高齢者の視点・次世代継承への意識・行動

## Generativity理論

「次世代の価値を生み出す行為に積極的に関わること」



▲ E.H.エリクソン (1963)

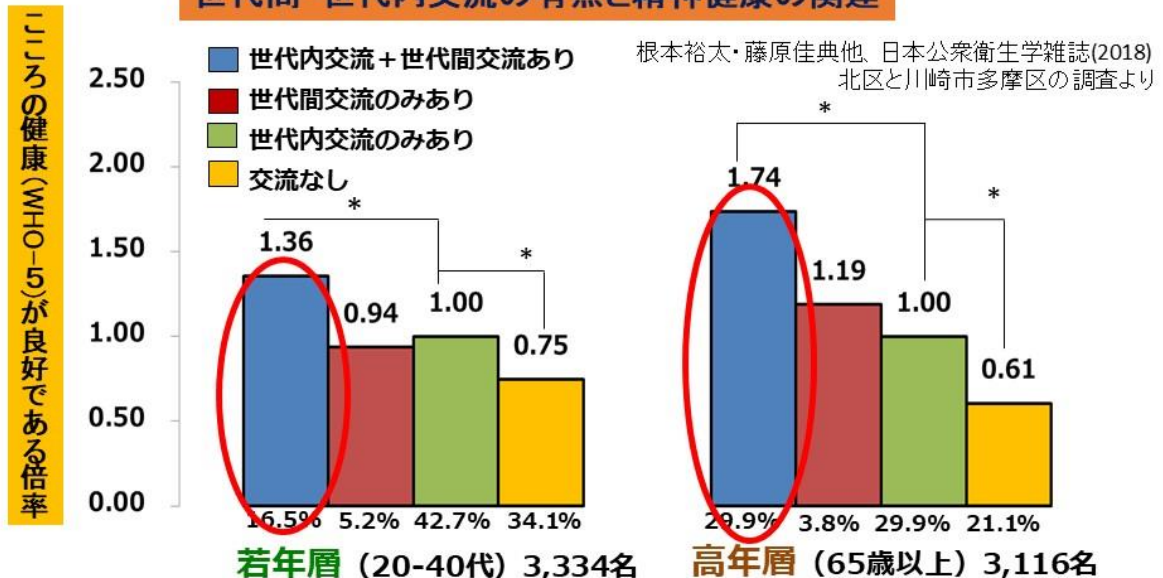


Erikson心理社会的段階目録検査

➡ 英知、思い、技術、経験、文化、環境・・・何かを伝える

# 一般住民においても、世代間交流は健康に良い！

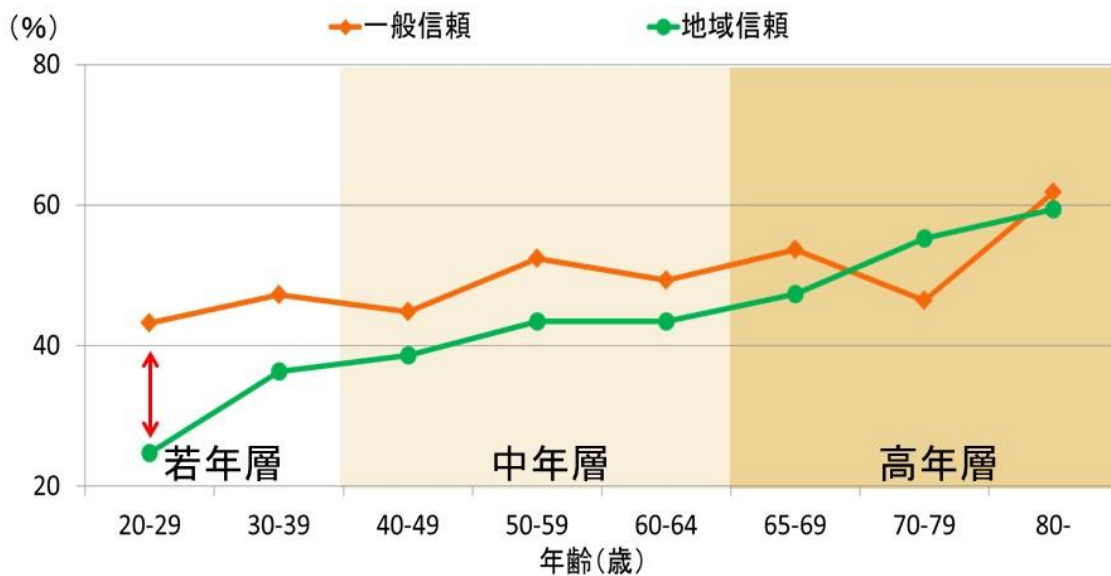
## 世代間・世代内交流の有無と精神健康の関連



※1 性、年齢、教育年数、婚姻状況、居住地域、婚姻状態、子/親/祖父母との同居、主観的経済状態、地域活動への参加、就労、健康度自己評価、生活機能(高齢者のみ調整)、服住歴(脳卒中、心臓病)を考慮した解析 ※2 家族や仕事関係の人以外で会話をする機会を問い、「よくある、ときどきある」と回答したものを「交流あり」とした。

世代を問わず、世代内交流をしている者は、交流をしていない者より精神的に健康であり、世代間交流もしている者はさらに健康度が高い。

## 若くなるほど地域力(=ソーシャルキャピタル)が低い ～世間一般の人への信頼vs.地域の人への信頼



速報「世代間の助け合いの意識と実態に関する調査」(平成27年3月実施)住民基本台帳より無作為抽出した20～84歳の川崎市A区民2,500人(回収率 39.2%)

## フレイル予防と認知症予防の「一石二鳥」

### 生理的予防法

脳の生理的状態をよくする

**運動習慣**(有酸素運動)

**食習慣**(野菜・果物・魚・ワイン)



### 認知的予防法

神経のネットワークを強化する

**知的活動習慣**

**対人接触**

**記憶、注意機能、  
思考(想像力)を  
刺激する活動**



事例：絵本読み聞かせ認知症予防・フレイル予防事業  
 ⇒修了後、世代間交流ボランティアへ  
 シニア読み聞かせボランティア「りぷりんと」



- 復刻本
- 現役生活の復刻

## 三方良し型予防

2004～モデル版

- 東京都中央区（都心部）27→40名
- 川崎市多摩区（住宅地）22→57名
- 滋賀県長浜市（地方小都市）21→100名



### 一般介護予防事業等として普及

2006～

杉並区、横浜市  
 青葉区、豊島区、  
 文京区、大田区

2015～

北区、板橋区、  
 府中市、練馬区、  
 千代田区、

2017～

狛江市  
 北秋田市

2018～

新宿区  
 立川市

2020

稲城市  
 八王子市

<https://www.nporeprints.com/>

## 生涯学習型・認知介入プログラム

第1回 今読まれている絵本について



第2-3回 忘れられない絵本，自分を知る

- ・絵本の記憶の掘り起こし，伝えるという技術について



第4回 読み聞かせに必要な体づくり

- ・柔軟体操から呼吸法、発声と滑舌 読み聞かせの技術



第5-6回 読み聞かせの練習

- ・読解と表現，文章理解と感情移入 記憶トレーニング



第7-8回 読み聞かせ発表 読み聞かせ実践

- ・個別発表会，自己採点・講評

第9回以降 グループ発表会の準備，実演



# ボランティア活動の実際



幼稚園でのお話会

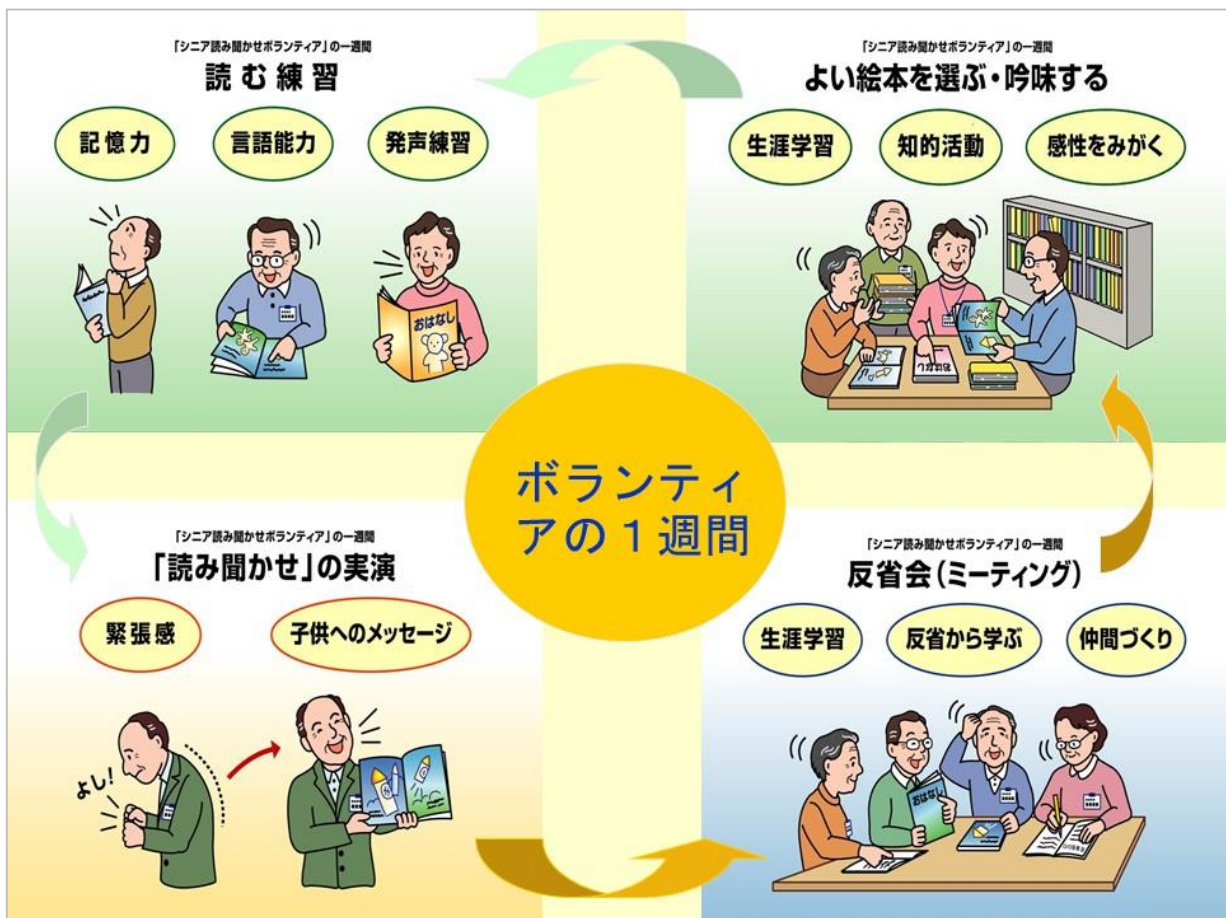
- 6～10人/1チームで施設担当
- 訪問頻度は1～2日/週
- 訪問施設は計300校園



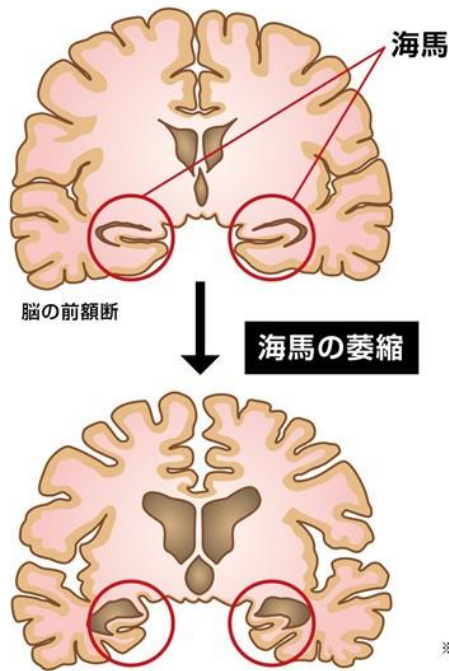
小学校での朝の読み聞かせ



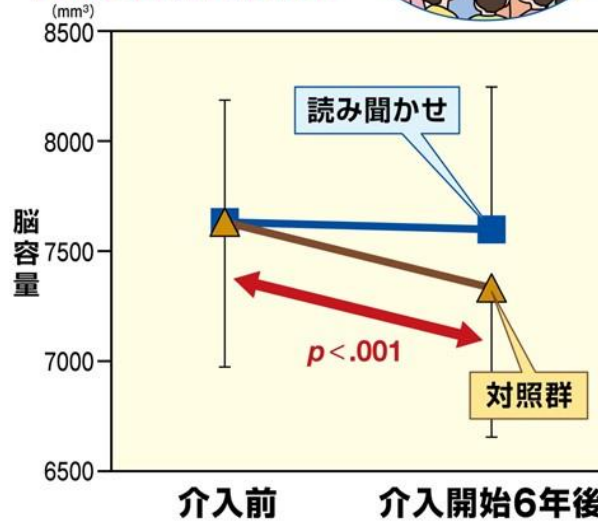
中学校での朝の読み聞かせ



# 海馬容量の6年間の変化



## 「読み聞かせ」に海馬萎縮抑制効果



※性、年齢、教育年数、現病歴、抑うつ得点、頭蓋内容量、MMSE得点、ApoE遺伝子型、追跡期間を調査  
Sakurai et al., Int J Geriatr Psychiatry, 2018

# 受け手への効果



- 活字・文学離れ予防
- 集中力
- シニアへの尊敬・感謝
- 教師、保護者以外の第三者の介在



- シニアへの尊敬・感謝
- PTAの負担軽減
- 地域の見守りの一助



- 開かれた学校のモデル
- 重層的な地域との連携のモデル

# 認知症予防教室卒業生が世代間交流へ、通いの場へ

## 07 認知症予防教室

認知症予防に効果のある「ウォーキング教室」「絵本読み聞かせ教室」。  
終了後は自主グループとして活動する。



## 読み聞かせボランティア 「りぷりんと・北」の活躍

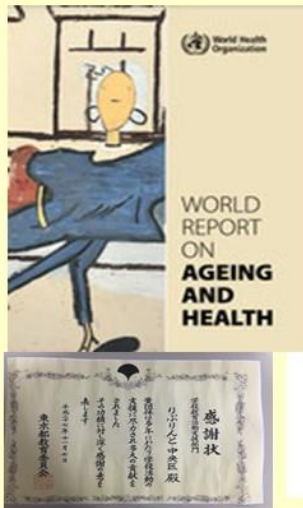
0歳から100歳まで  
読み聞かせしてます！

東京都北区委託事業



2019年2月1日Eテレ「あしたも晴れ！人生レシピ」出演

# WHO ワールドレポートにて優良事例として紹介



Box 6.14. Older people helping children read and learn: the United States of America

Experience Corps is a volunteer programme in the United States that places older volunteers in public elementary schools, giving them meaningful roles that are designed to help schools meet the needs of their students as well as increasing the social, physical, and cognitive activities of the volunteers. The programme is designed to have an impact in areas such as improving:

- children's interest in reading and discussing books;
- children's literacy;
- children's ability to solve problems;
- children's ability to play nonviolently;
- school attendance.

Teams of 7-10 volunteers are assigned to each school, thus ensuring that sufficient volunteers are available to have an effect across all grades within the school. Volunteers commit to spending at least 15 hours each week at the school for the duration of the school year; they receive training and a stipend to reimburse the costs of travel and meals. Volunteers receive 30 hours of skills training that encourages mental flexibility, coordination, visual-spatial learning and problem-solving. The volunteers meet regularly to plan, solve problems and socialize. Physical activity is stimulated by virtue of participating in the programme, and includes commuting to the school and moving around the school, for example, by going up and down the stairs.

This programme has demonstrated positive effects on the health of older people. A number of randomized trials have evaluated the impact of participating in Experience Corps. Benefits for participants compared with controls have shown:

- an increase in physical strength and capacity (37%, 17%);
- increased cognitive activity;
- maintenance of walking speed;
- improvements in social networks - that is, volunteers had people that they could turn to for help (37%);
- fewer depressive symptoms (37%).

Volunteers are attracted to Experience Corps by the chance to make a meaningful contribution to society and assist children in achieving academic success. Satisfaction levels among volunteers are as high as 98%, and 90% of those surveyed reported during the following school year (37). Traditional health promotion programmes that focus explicitly on physical activity tend to have significantly lower retention rates.

Studies in 1996 in five cities in the United States, the programme has expanded to 17 cities and inspired similar initiatives internationally. For example, in Japan a programme called DEEPNET places teams of 8 older volunteers (60-80 years old) in elementary schools to read to young children. A follow-up assessment found that those who volunteered most frequently had a significantly higher frequency of contact with their own grandchildren and other children in their neighbourhoods, as well as better self-rated health compared with those who did not volunteer or only did so infrequently (37).

Volunteering opportunities of well-designed, can be set up in any area for older people and their communities. Programmes like Experience Corps and Equipes, need not be costly to put in place, and they have the potential to yield positive benefits to both the older and younger generations alike (34, 37).



読売福祉文化賞受賞 H30/12/11

東京都教育委員会より表彰(H27)



第4回「アジア健康長寿イノベーション賞」優秀事例(日本国際交流センター)



川崎市社協より表彰(H29)



滋賀県健康寿命延伸PJ最優秀賞(H29)



内閣府高齢社会対策サイト(H19)

# 本日の話題

- 巣籠もり生活と生活機能低下
- 多世代共生社会と多様な通いの場
- 活動の再開に向けて～

## 三方良しの「ソーシャルキャピタル」

近江商人「売り手よし、買い手よし、世間よし」  
(論語と算盤)



澁澤榮一  
東京都養育院(当センター)の創設者





## 通いの場の活動再開の留意点

東京都健康長寿医療センター 研究部 社会参加と地域保健研究チーム 編

### 通いの場の再開時における感染症対策をふまえた5つのポイント

- 参加に際してのルールの設定**
  - ・発熱(37.5以上もしくは、平熱より1℃以上高い)、風邪症状がある場合は自宅療養しましょう。
  - ・体温測定は、毎朝、できるだけ同じ時間帯に行いましょう。
  - ・マスクもしくはそれに類する布より換気チケットの対応を行いましょう(特に会話時や歌唱時には要注意)。
  - ・手洗い、うがい等の基本的な感染症予防対策を徹底しましょう。
- ソーシャルディスタンスの確保**
  - ・大人が両手を広げてお互い手を覆れる距離が取れる人数は何名くらいかを確認しましょう。
  - ・人数が多い場合には、時間を分けて複数回に分けて実施するのも一案です。
- 重点消毒の箇所の設定と消毒の実施**
  - ・複数人が触れる場所を検討し、消毒液等で適宜消毒しましょう。
  - ・重点箇所: ドアノブ、テーブル、椅子、トイレの洗浄ペーパーハンドル等
- 換気方法の確認とルールの設定**
  - ・毎時2回以上、数分間の換気を行う(回数目安)。
  - ・換気の悪い場所は極力避けない。
  - ・換気が難しい場合には、扇風機等を使用できる限り換気に努めましょう。
- 運動時のこまめな水分補給(熱中症対策)の実施**
  - ・マスクを着用して運動を行う場合、特に暑くなる時は、こまめな水分補給を実施しましょう。



### 通いの場の再開前に、感染症対策とあわせて考えたい8つのポイント

- ① 通いの場の目的を確認する(見直す)。
- ② 通いの場の開催方法を確認する(見直す)。
- ③ スタッフ同士のコミュニケーションを強化する。
- ④ 通いの場に来てた人達の足を遠ざけない。
- ⑤ 新しい参加者や協力者を得るチャンスに変える。
- ⑥ 他の通いの場と連携するチャンスに変える。
- ⑦ 地域の理解を得ながら再開する。
- ⑧ 自治体等の専門機関・専門職と連携する。



## 通いの場の再開チェックリスト

東京都健康長寿医療センター 研究部 社会参加と地域保健研究チーム 編

- |  |  |
|--|--|
| <p><b>再開する前に</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 通いの場の目的を確認する(見直す)。</li> <li><input type="checkbox"/> 通いの場の開催方法を確認する(見直す)。</li> <li><input type="checkbox"/> スタッフ同士のコミュニケーションを強化する。</li> <li><input type="checkbox"/> 通いの場に来てた人達の足を遠ざけない。</li> <li><input type="checkbox"/> 新しい参加者や協力者を得るチャンスに変える。</li> <li><input type="checkbox"/> 他の通いの場と連携するチャンスに変える。</li> <li><input type="checkbox"/> 地域の理解を得ながら再開する。</li> <li><input type="checkbox"/> 自治体等の専門機関・専門職と連携する。</li> </ul> <p><b>いよいよ再開する</b></p> <p>●<b>広報(チラシ等)に盛り込む内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 参加費は、おつりの必要が無いよう呼びかける。</li> <li><input type="checkbox"/> 具体的な内容と安全等をほどほどにすることを認める。</li> <li><input type="checkbox"/> 参加者多数の場合には入室を制限・形を替えることを認める。</li> <li><input type="checkbox"/> 参加者になることがある場合の問い合わせ先を示す。</li> <li><input type="checkbox"/> ソーシャルディスタンスがとれる人数にすることを認める。</li> <li><input type="checkbox"/> 可能な場合には、事前予約制にし、参加者を把握する。</li> <li><input type="checkbox"/> マスクの着用、体調が悪い人は参加しないことを認める。</li> <li><input type="checkbox"/> 換気が行われる場がある場合でも、上層が換気を呼びかける。</li> </ul> <p>●<b>当日の材料や備品の準備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 清潔な使い捨ての物は使用しない。</li> <li><input type="checkbox"/> マスクや手袋、消毒液などを十分準備する。</li> <li><input type="checkbox"/> 伝えやすいルールについてわかりやすい掲示物を作成する。</li> <li><input type="checkbox"/> 使い捨ての物品(紙コップなど)を使用する。</li> <li><input type="checkbox"/> 道具や材料は共有しないように、個別に用意する。</li> <li><input type="checkbox"/> 感染予防薬品は確保された物を使用する。</li> </ul> <p>●<b>プログラムの準備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 室内や建物のトラスで菌類発生しない様子を調べる。</li> <li><input type="checkbox"/> ソーシャルディスタンスが保てる内容を企画する。</li> <li><input type="checkbox"/> 動き回ったり、息が充ちるプログラムは控えるようにする。</li> <li><input type="checkbox"/> 再開後しばらくは時間を短くした内容を実施する。</li> <li><input type="checkbox"/> 参加できない人のため、オンラインで参加できるを検討する。</li> <li><input type="checkbox"/> 大声で指示せず、マイクやポスター・ボードで認める。</li> <li><input type="checkbox"/> 会場が大きかった場合は遠隔に設定した内容にする。</li> <li><input type="checkbox"/> 設定したスタッフ・メンバーで運営するよう検討する。</li> <li><input type="checkbox"/> 録音や録画・取材は電話またはオンラインで対応する。</li> </ul> <p>●<b>スタッフのトレーニングと危機管理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 衛生管理で注意すべき点、備品の使用方法を学習する。</li> <li><input type="checkbox"/> 会場に設置する掲示物をリストアップする。</li> <li><input type="checkbox"/> 個人への感染、参加しやしない内容や時間等の対応を話し合う。</li> <li><input type="checkbox"/> 体調不良者がたまたまの場合の息患場所や対応方法を定める。</li> <li><input type="checkbox"/> 体調不良者がたまたまの場合の連絡、指示体制、流れを確認する。</li> </ul> | <p><b>開催日</b></p> <p>●<b>会場準備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 事前開始前にしっかり清掃と消毒、換気をする。</li> <li><input type="checkbox"/> チェック項目の確認と、消毒をする箇所を事前に目印をつける。</li> <li><input type="checkbox"/> 衛生用品を事前に、人が触れる必要が少い十分な数を配る。</li> <li><input type="checkbox"/> 椅子は可能な限り2mの間隔をとり、不要な椅子はとらない。</li> <li><input type="checkbox"/> 子どもがいる場合には、子ども用の消毒液などを用意する。</li> <li><input type="checkbox"/> テレビのリモコン、筆などいろいろな人が触れる物は消毒しない。</li> </ul> <p>●<b>受付</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 参加者が一旦に入場しないよう、スタッフが監視をする。</li> <li><input type="checkbox"/> 入室時刻、検温を記録し、体調(発熱、倦怠感など)を聞く。</li> <li><input type="checkbox"/> 参加者は消毒薬などに入れてもらい、手洗い消毒する。</li> <li><input type="checkbox"/> 本人にも感染の記入はしてもらわずに、スタッフが記入する。</li> <li><input type="checkbox"/> 参加費を準備し、参加費が足りない場合は、事前に申し込む。</li> <li><input type="checkbox"/> マスク、手拭き、ペーパーなど物資が足りないようになり、ドアや手拭きは、スタッフが随時調達する。</li> <li><input type="checkbox"/> マスクを保持していない場合は、マスクを貸与する。</li> <li><input type="checkbox"/> 入場口衛生管理に関する注意事項などを認める。</li> <li><input type="checkbox"/> 参加人数が多いと感じる場合、お断りなどの対応をする。</li> </ul> <p>●<b>プログラム開始時</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 開始前に、まずは参加者の最近の体調や様子を確認する。</li> <li><input type="checkbox"/> ルールは、具体的な内容を示して説明したり、やって見せる。</li> <li><input type="checkbox"/> 以前なかった感染対策材などがあれば、注意をうながす。</li> <li><input type="checkbox"/> ソーシャルディスタンスの確保を参加者同士で確認する。</li> <li><input type="checkbox"/> 体調がすぐれない時の対応を説明し、参加者を紹介する。</li> </ul> <p>●<b>プログラム中</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 手洗いを促し、ソーシャルディスタンスを確認する。</li> <li><input type="checkbox"/> 参加者をグループに分け、グループ間の移動を減らす。</li> <li><input type="checkbox"/> 会場の出入り口、トイレなども定期的に消毒する。</li> <li><input type="checkbox"/> 途中で、息を切ったり、扇風機などで換気する。</li> <li><input type="checkbox"/> 飲食物は、トレイに持ち運びをし、参加者に運ばない。</li> </ul> <p>●<b>プログラム終了時</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> プログラムの感想や不安な点などがあったら聞く。</li> <li><input type="checkbox"/> 一斉に参加者が退場するよう、時間をずらして退場させる。</li> <li><input type="checkbox"/> 個人が消費した飲食物の量は、各自持ち帰りとする。</li> </ul> <p>●<b>プログラム終了後</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 会場の清掃を行い、消毒する。</li> <li><input type="checkbox"/> 感染症を予防し、菌類などを拭き取り、加湿器に交換しなげる。</li> <li><input type="checkbox"/> スタッフ同士で、お互いになさげない、心のケアをする。</li> <li><input type="checkbox"/> 参加者の実況の共有は全員で共有する。</li> <li><input type="checkbox"/> その日の参加者数、課題などを、専門職などにも報告する。</li> </ul> |
|--|--|

令和2年5月28日  
地方独立行政法人  
東京都健康長寿医療センター

## 「地域の通いの場の再開に向けた 新型コロナウイルス対策ガイド」を発行

東京都健康長寿医療センター 研究所の社会参加と地域保健研究チームが、地域の通いの場の再開に向けた住民向けの実践の手引きとして、「通いの場×新型コロナウイルス対策ガイド」を発行しました。

- 発表内容の概要
  - 分譲予約・フレイル予防に資する「地域の通いの場」は、地域の社会資源として、地域包括ケアシステムの一環を担うべく、整備が進んできました。しかし、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、そのほとんどが閉鎖されていた状況です。緊急事態宣言の解除に伴い、再開の機運が高まってきたものの、運営時の留意事項等の具体的なガイドラインはなく、「地域の通いの場」を主催する住民リーダーや、住民を支援する生活支援コーディネーターやNPO等にはそれぞれの方策を模索して再開に向けた準備を進めようとしている状況です。
  - また、閉鎖されていた「地域の通いの場」を再開する際には、今までの活動に加え、新しい日常生活様式を踏まえることに加え、新たな地域交流・社会参加を通じた分譲予約・フレイル予防の視点の追加も必要となります。
  - これらの背景から、当研究チームでは、「地域の通いの場」を主催する住民リーダーや生活支援コーディネーター等の支援者が再開に向けての相談で活用可能な、「通いの場×新型コロナウイルス対策ガイド」と、「観察チェックリスト」の2種類のコンテンツを作成いたしました。



※このコンテンツは、東京都健康長寿医療センター(国)の子供向けケアプログラム再開ガイドラインを参照し、当研究チームが協議してきた通いの場の支援者や主催者との経験・情報交換をもとに作成いたしました。

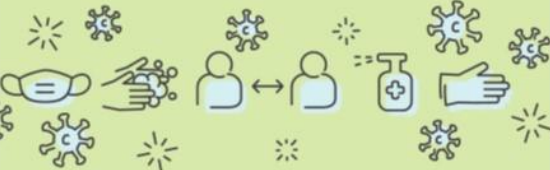
- 参考リンク
  - ・ Centers for Disease Control and Prevention(CDC). Guidance for Child Care Programs that Remain Open : <https://www.cdc.gov/csde/news/2019/eovvcommunity/schools-childcareguidance-for-childcare.html>
  - ・ 厚生労働省、新しい生活様式 : [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisaku/seisaku/0000121431\\_newlife.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisaku/seisaku/0000121431_newlife.html)
- 公開・ダウンロード先:
  - 東京都健康長寿医療センター 研究所  
社会参加と地域保健研究チーム ホームページ内  
"News & Topics" よりダウンロードいただけます。  
<https://www.02ag.or.jp/pcph/index.html>

問い合わせ先  
東京都健康長寿医療センター 研究所 社会参加と地域保健研究チーム  
研究部長(チームリーダー) 藤原 佳典  
電話 03-3664-3241 内線 4257  
Email [02ag@02ag.or.jp](mailto:02ag@02ag.or.jp)

## 通いの場 × 新型コロナウイルス対策ガイド

感染症対策を含めたウィズ / ポスト新型コロナウイルス時代の  
通いの場の実践のためのポイント

### 第1版



地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター  
東京都健康長寿医療センター 研究所  
(東京都老人総合研究所)

### 社会参加と地域保健研究チーム

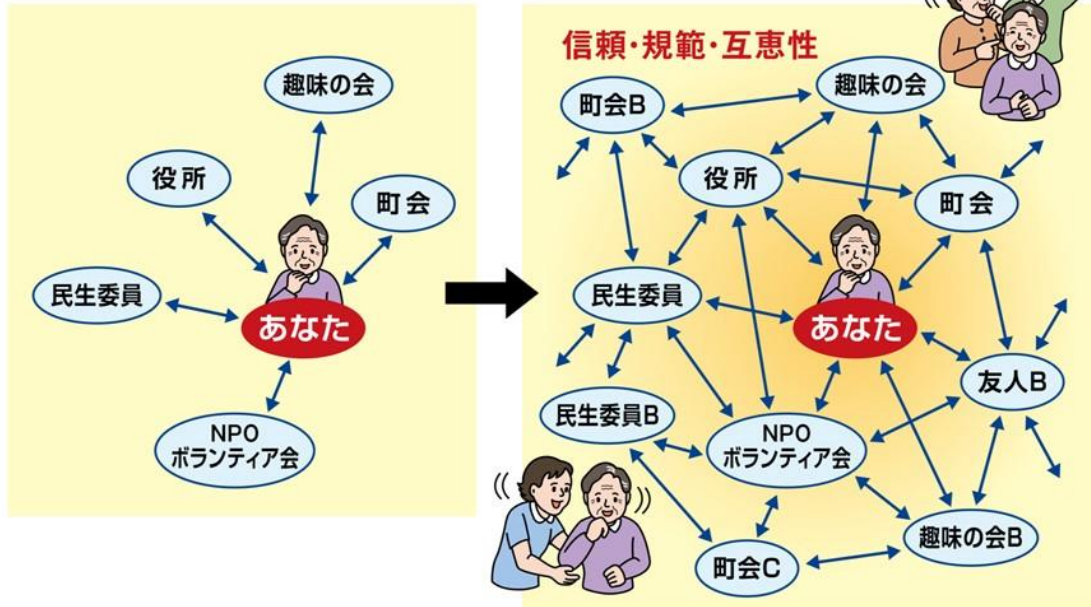
2020年5月27日



# ソーシャルキャピタルを仕事に活かそう！



## 「つながり」を線から面へ広げる、 ソーシャルキャピタルの…つなぎ屋さん



## 多世代交流の拠点ができれば、活動に拍車がかかる

### ■多世代交流サロン、多世代交流イベント…



～中野島多世代つながり愛プロジェクト～  
**6月の多世代交流イベント**  
こどもからシニアまで誰でも参加できます！中野島以外にお住まいの方も大歓迎です♪

**中野島ファミリーカフェ** 参加費 300円 (飲み物お菓子付)  
第2・第4金曜日 10:00～11:30 中野島公民館

**6/14 (金)** 「羊毛フェルト講座」  
前回は好評だった講座で羊毛を特殊な針でつづいて可愛いマスクを作ります。子供で中のママさん講座に教えていただきます。  
材料費 200円 先着10名様

**6/28 (金)** 「多世代交流カフェ」  
カフェタイムを楽しみながら手芸、絵本読み聞かせ、読書講座などの体験ができます。昼食あまり持参しなくてもいい時代の方との話し合いの場を設けます。

**ボール de ワーク** 参加費 200円  
第2月曜・第4水曜 10:00～11:30 協賛：多摩川の家 障害者福祉施設  
雨天の備前、要所で実施します  
※ボールをお持ちでない方はお問い合わせください

**6/10 (月)** **6/26 (水)**

通常コース、ゆっくりコース、初心者コースなど幅広くご参加いただけます。指導員資格を持つスタッフが皆さんのサポートをしますので気軽にご参加ください！

主催：まちプロ中野島/多摩川役所/多摩川の家 地域包括支援センター  
問い合わせ先 中野島多世代つながり愛プロジェクト協議会事務局  
多摩川役所地域ふれあひ支援センター (福祉事務所・保健所共用) 地域支援課内

最新情報はフェイスブック・インスタグラムで  
中野島ファミリーカフェを検索  
中野島多世代つながり愛プロジェクト協議会事務局

## ボランティアを楽しむコツ

- ・ 知識・技術で勝負（日々、学習）
- ・ センスを磨く（他人の振りみる空気を読む）
- ・ まめに参加（あせらない）



そして、3つのK  
感謝・寛容・感激



センス（工夫）  
＋シナジー（協働）  
＋スマイル（明るく）  
＝「3S」で乗り越えよう！



ご静聴有難うございました！

# 保健福祉職のための 「まち」の健康づくり 入門

地域協働によるソーシャル・キャピタルの  
育て方・活用法

藤原佳典 監修  
倉岡正高・石川真美子 編著



ミネルヴァ書房

ミネルヴァ書房



大修館書店

# シニアから君たち(中学生)へ 「読み聞かせ」に託す こころのリレー

編集者  
現代異文化プロジェクト  
「NPO人とネットワーク」  
監修者  
東京福祉福祉品販賣センター研究所  
社会参加と地域保健研究チーム  
研究員 藤原 嘉子

シニアボランティアが  
子どもたちに届けた  
読み聞かせ絵本  
続101選

ライフ出版社 ライフ出版社

# 地域を変えた 絵本の 読み聞かせ のキセキ

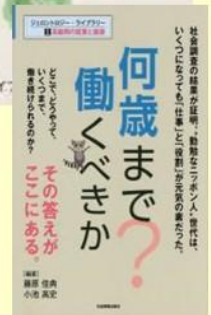
シニアボランティアはソーシャル・キャピタルの源泉

優秀シニアボランティアが選んだ  
子どもたちに何度でも  
読んであげたい絵本  
101選

編集者 現代異文化プロジェクト「NPO人とネットワーク」  
監修者 東京福祉福祉品販賣センター研究所  
社会参加と地域保健研究チーム  
研究員 藤原 嘉子



ライフ



社会保険出版

ご静聴有難うございました!